

同窓会の幹事を任された田中は、久しぶりに高校時代の友人に電話を入れた。

「はい、金井です」

「夜分遅く恐れ入ります。田中と申しますが隆司さんいらつしやいますか？」

「まだ仕事から帰ってきてないんですけど・・・」

「あ、そうですか。私、隆司さんの高校時代の友人なんですけど、来月同窓会を開くことになりました、その連絡なんです」

「そうですか。それでは戻りましたら隆司の方からすぐお電話させます。すみませんが、もう一度お名前をお願いします」

「田中耕一と申します」

「田中耕一さんですね。そちらのお電話番号は、隆司は存じておりますか？」

「はい、ご存知だと思いますが一応申し上げます。九一二―一五一九です」

「九一二―一五一九ですね、わかりました。隆司は最近忙しいようで、帰りが遅い日が多いんです。あまり遅いようでしたら明日連絡させますね」

「すみません。あいにく明日は一日中外出してしまいますので、できれば伝言をお願いしたいのですが」

「はい、どうぞ」

「来月九日の金曜日に、七時から神田にある海洋飯店という中華料理店で同窓会を開くことになったんです。それで、その出欠を来週までに知らせてほしいとお伝えただけですか？」

「来月九日の七時からですね。わかりました、伝えておきます」

「よろしくお願いします」

数日後、金井から連絡が入った。

「はい、田中です」

「夜分恐れ入ります。金井と申しますが耕一さんご在宅でしょうか？」

「もしもし金井か、久しぶり！」

「久しぶりだな！ この前同窓会の連絡をくれたそうだけど、九日は残念ながら出席できそうもないんだ。最近忙しくてなかなか定時で帰れないんだよ。九日は七時前に終わったとしても、それから神田まで行ったら大分遅くなるし・・・」

「もしよかったら、途中からでも出席できないか？ みんな久しぶりに会えるのを楽しみにしてるからさ」

「そうだなあ・・・それじゃ早く終わったら顔を出すようにしようかな。一応、店の住所と電話番号を教えてください」

「住所は東京都千代田区神田錦町一―十九、電話番号は〇三―九八二一―三五九一、海洋飯店っていう店なんだ。大通り沿いにあるから場所はすぐになると思うよ」

「わかった、ありがとう」

「それじゃ、当日楽しみにしてるよ」

田中はそう言って電話を切り、まだ出欠のはっきりしない何人かに、再度確認の電話を入れた。